

第7回

日本医師会

赤ひげ大賞

高齢化 チームで支える

地域で献身的な医療に取り組む医師を顕彰する第7回「日本医師会 赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社、特別協賛・太陽生命保険）の表彰式が15日、東京都内で開かれる。今回大賞を受賞した全国各地で活躍する医師5人の日々の活動を紹介する。



訪問診療で診察する大里祐一医師
—秋田県鹿角市（大西正純撮影）

おおさと・ゆういち 医療法人春生会大里医院理事長。昭和11年、埼玉県浦和市生まれ。83歳。東北大学医学部卒。大館市立総合病院内科勤務の後、47年、父・文祐氏から大里医院を継承。平成24年には介護療養型老人保健施設大深を併設。

午前中の外来診療を終えた後、午後を訪問診療に充てている。白衣に長靴。これが大里祐一医師の冬の往診スタイルだ。鹿角市は秋田県北部に位置する人口3万1437人、高齢化率37・8％（平成28年）に達する高齢過疎地域だ。市内には13の医療機関があるものの、人口10万人当たりの医師数は秋田県の平均値の65％にとどまっている。一方、その面積は広く、多くは中山間地域であり、無医村地区が2カ所、準無医村地区が1カ所ある。また、冬季は寒冷豪雪のため、一部通行止めになる区間があり、日常の交通インフラに支障をきたしている地域もある。そんな中、大里医師は、昼夜を問わず患者宅を訪問し、診療に当たってきた。

白衣に長靴 豪雪地帯で往診

8年もの間、父の文祐氏、祐一氏と3代にわたって、地域住民の医療・保健・福祉の向上を牽引してきた。「働いている人たちが受診しやすいように」と日曜日でも診療を行い、地域住民から絶大な信頼を得ている。大里医師が父から医院を継いだのが昭和47年。地域での救急から在宅に至るまで一貫した診療に取り組んできた。その歩みは、「地域医療」という言葉が一般的に使われていなくなった時代から地域で生活している人々に寄り添う姿勢で貫かれてきた。海外登山の経験も豊富で、アフガニスタン、ネパール、パキスタン、チベット、インド、中国などの遠征隊に医師として参加してきた。平成7年の阪神大震災の際には、寝袋を背負って神戸市長田地区に入り、医療活動に当たった。海外登山の経験から登山用のガスボンベを持参し、物資不足の診療現場で喜ばれたという。

第7回 赤ひげ大賞（5人）

- | | | |
|-------|-----|--------------------|
| 大里 祐一 | 秋 田 | 大里医院理事長 |
| 千場 純 | 神奈川 | 三輪医院院長 |
| 堀川 新 | 澁 野 | 堀川内科・神経内科
医院理事長 |
| 橋上 好郎 | 長 野 | 医療法人健全会理事長 |
| 緒方俊一郎 | 熊 本 | 緒方医院院長 |



日本医師会
横倉義武会長

地域の住民の健康を維持するため、地道に医療に取り組む医師の活動に光を当てたいとの思いから創設した「日本医師会 赤ひげ大賞」も、今年度で7回目を迎えることができました。受賞者には、久しぶりに女性の医師も含まれており、大変うれしく思っています。医療は人が人に行う行為であり、医師と患者の間に信頼関係がなければ成り立ちません。今回の受賞者も皆、患者さん

地域医療に尽力 理想の姿

が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、情熱を持って地域に密着した医療活動を実践し、かかりつけ医としての信頼も厚く、その存在はまさに日本医師会の考える医師の理想の姿であるといえます。超高齢社会を迎えたわが国では、今後、いかに健康な状態を維持するかが大きな課題となっています。そのためにも、若い時から健康について意識し、もう一つが大事になると考えており、日本医師会では、皆さんに、かかりつけ医をもつことを呼び掛けています。ぜひ、皆さんも、本賞受賞者のような信頼できる医師を見つけてください。



太陽生命保険
田中勝英社長

「日本医師会 赤ひげ大賞」を受賞された方々の皆さまに心よりお祝いを申し上げます。地域で生活していく人々に寄り添い、命と向き合っていく先生方の姿勢に敬服するとともに地域医療の大切さを改めて痛感しております。当社は「シニアに最もやさしい生命保険会社」を目指し、昨年10月に

命と向き合う姿勢に敬服

「ひまわり認知症予防保険」という商品を発売いたしました。これは保険本来の役割である「保障」だけでなく、「予防」への取り組みをサポートすることで認知症の予防や早期発見、早期治療を支援しているものです。地域医療を支えている「かかりつけ医」は、特に高齢者の健康を守る観点からも非常に重要な存在だと思えます。当社は地域にお住まいの方々の健康と生活を支えているお医者さまにスポットを当て、「赤ひげ大賞」を今後も応援していきたいと思っております。



訪問診療で患者を診察する千場純氏
—神奈川県横須賀市（桐原正道撮影）

千場純氏（神奈川県横須賀市）

脳梗塞に倒れ、自宅のベッドで寝たきりになった男性患者に向かい「奥さんのこと好きですか？」と語りかける。喜ばれながらもまっさらな男性が顔をくしゃくしゃにしてうなずく様子を見せると、妻が介護に当たっている一軒家に暖かな空気が流れ込んだ。平日午後は、軽自動車に乗り込み患者宅へ訪問診療に向かう。ときどき、姿を見かけた市民から「あつ、先生だ」の声が飛ぶ。全国平均に比べ5年早く高齢化が進んでいるといわれる神奈川県横須賀市の有名人だ。

安らかな最期へ 在宅サポート

在宅医療では看護師や社会福祉士、ケアマネジャー、または地域住民など、さまざまな人々が関わることになる。間もなく訪れようとしている超高齢化多死社会を前に、医師としてそのチームの旗振り役を担いたいと望む。

大学病院に勤務した駆け出しのころ、自宅に戻りたいと訴える患者に出会ったのが、在宅医療を考えるきっかけだった。現在の職場に移って以降、患者がわが家であらかな最期を迎えられるよう、本人とその家族を支援してきた。

■推薦方法と推薦基準
【推薦方法】本賞受賞にふさわしいと思われる方（原則1人以上2人以内）を各都道府県医師会会長が推薦
【推薦基準】病を診るだけではなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会の会員および都道府県医師会の会員で現職の医師（ただし、現職の日医・都道府県医師会役員は除く）

23日 BSフジで特別番組を放送

「密着！ かかりつけ医たちの奮闘～第7回赤ひげ大賞受賞者～」
2019年3月23日(土)14:00～14:55放送

【主 催】日本医師会、産経新聞社
【後 援】厚生労働省、フジテレビ、BSフジ
【特別協賛】太陽生命保険株式会社

太陽生命

保険で、 認知症を 予防!?

認知症を世の中からなくしたい。それは、私たちの強い願いです。

人生100歳時代を、ずっと元気に生きていくため。保険にはもってこいできることがあると、太陽生命は考えます。

たとえば認知症保険も、治療だけでなく予防のためにも使えるよう進化します。太陽生命の「ひまわり認知症予防保険」なら、加入1年後から2年ごとに予防給付金が受け取れるので、軽度認知障害発症リスクの検査や様々な認知症予防のために活用できます。変化し続ける時代のニーズに、太陽生命は保険でお応えしていきます。

業界初 **ひまわり認知症 予防 保険**

※当広告では選択緩和型認知症診断保険に生存給付金特則を付加したプランを「ひまわり認知症予防保険」としてご案内しています。状態継続日数の要件がなく、所定の認知症と診断された時に保険金を主契約でお支払いする生命保険は業界初です。(2018年7月現在、当社調べ)

【資料のご請求は】太陽生命お客様サービスセンター

0120-04-22-33

(通話無料)

営業時間:月～金 9時～18時/土・日 9時～17時
※祝日・年末年始(12/30～1/4)は休業します

https://www.taiyo-seimei.co.jp/

太陽生命 検索

